

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892500125		
法人名	合同会社 グリーン・フィール		
事業所名	グループホーム サングリーンピア大宮		
所在地	茨城県常陸大宮市若林952-1		
自己評価作成日	平成24年11月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは家庭的雰囲気があり、入居者はそれぞれにゆったりと過ごしている。一日二回、血圧測定、体温測定を行い体調に配慮している。ホーム周辺は自然が豊かなので、散歩に出たときなど、花を摘んだり栗やアケビを拾ったりして季節感を味わい暮らすことが出来る。また、ホーム敷地内にある家庭菜園では無農薬の野菜を育てているため、安心して食べる事ができる。食事も栄養士が考案した献立を提供しており、「美味しい」と入居者に好評である。地域やボランティアの方との交流が定期的であり、出かける機会もある。職員は常に、「入居者が生き生きと暮らしてほしい。」という思いを抱きながら、介護にあたっている。職員間のチームワークも良好である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0892500125-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成25年1月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは目の前に豊かな山林があり全身で四季を感じる事が出来る環境の中に佇んでいた。また2階は一般の方が居住するマンションの1階を利用する形で作られているため緊急時なども2階の住民と協力出来る仕組みづくりが構築されていた。また、開設者がホームの2階に居住している事もあり、職員との関わりも日常的に行われ職員も運営に関する意見などを遠慮なく言える環境の中で支援がされていた。更に豊かな環境を生かし大きな家庭菜園も作られ入居者と共に野菜作りなどが行われ楽しみ事の一つになっていた。その野菜を入居者と共に収穫するなど季節感が持てるような支援が特徴的だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時の管理者と職員が、BS法を用いて事業所理念を作り具体化させた。また、職員一人一人が自分の家族を入居させたいようなホームにしよう、という気持ちで業務にあたっている。	職員と共に理念を作成し、その理念に基づき地域との交流を目的に年間を通し地域の除草作業やゴミ拾い等にも参加している。また、入居者の些細な言動や行動にも目を配り日常生活を支援していた。今後は身近な目標を定め、きめ細かな支援にあたる予定もあるようであった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に参加したり、地域で開催されている健康教室に招待されている。また、2階に住む一般の居住者が遊びに来る事もある。ホームの花火大会のポスターを屋外に掲示している。近隣の介護施設との交流もある。	ホームの2階に代表が居住している。代表を通し地域の催し物は回覧板等で知る事ができるので入居者と共に参加していた。また、知人を通し小学校の子供達が体験学習にきていた。今後は更に子供たちの緊急時の避難場所やトイレが自由に使用できる様な取り組みを試みる予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を兼ねて、救命講習や防災訓練の参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長の紹介で、近隣小学校に挨拶を兼ねて体験学習の案内とホームの紹介をした。また、会議のメンバー等からボランティアの紹介をしていただき登録ボランティア数が増え、定期的に慰問に来ていただく体制が出来ている。	運営推進会議は入居者家族の参加を多く促すため土曜日の開催を実施している。その為か市町村職員や地域包括の職員がなかなか参加出来ない実態があるようであった。防災訓練等には市町村職員が参加してくれているようであった。	今後は市町村職員や地域包括支援センター職員が参加しやすい曜日等の開催も視野にいれ多職種が協働出来るような推進会議の構築を期待する。また、以前実施された様な防災の日等のイベントも推進会議の日と重なる様な工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度、市役所にて開催されているグループホーム連絡協議会に参加し、市職員、各グループホームとの情報交換をしている。また、県の補助を受け、複数事業所連携事業として、職員研修を実施している。市には、毎月グループホームの空き状況を報告し市のホームページに掲載してもらっている。	市町村が開催するグループホーム連絡協議会には必ず出席し率直な意見交換を行えており、そのような事とおし市町村との連携が出来た。また、研修会等も協働で実施されていた。	

茨城県 グループホームサングリーンピア大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての施設内研修を行なっている。また、身体拘束廃止マニュアルをいつでも閲覧できる場所に設置してある。入居者とは必要に応じて身体拘束に関する同意書を取り交わしている。	身体拘束については常に職員と話し合いを持ち事業所運営がされていた。ホームはハード面の関係上施錠が施されているがその事についても職員は漫然と行うのではなく鍵をかけない介護について話し合いを持ち家族からは同意書を貰っていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内に高齢者虐待防止法に関連する資料を掲示している。また、月に一度の全体会議を利用して、職員間の意見交換や勉強会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護支援専門員連絡協議会の勉強会で権利擁護について学んだが、今のところ活用する場面は無いが、必要に応じて協力体制は確立されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも問い合わせがあればその都度個々に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族に、運営推進会議に参加していただいた際の意見や要望を反映させている他、家族に請求書を送付する際、入居者の日々の様子を手紙で報告したり、電話で意見を頂いている。	入居されている方のご家族は遠方におられたりするためなかなかご意見が頂けない。忌憚のないご意見を頂くため定期的に一筆箋を送る・電話をかけるなどして家族の意見を聴く機会を多く設けるように心がけられていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議にて、各担当者から報告や意見交換の機会を設けている。また、毎朝の申し送り時に、職員から報告・相談する機会を設け、職員の意見を反映させている。年2回の職員の個別面談の際、会社に対して改善してほしいこと等を聞く機会を設けている。	職員とは月に一度の全体会議や年に2度の個人面談において自由に意見交換が出来ていた。職員の意見をいかし浴室前の手すりを取りつけられたりされていた。休日に関しても比較的希望が通りやすいようであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を得た職員には、祝い金制度がある。その他給与に手当等の上乗せがある。各職員の生活環境に合わせて休日が取りやすいよう配慮し、退職者が出ないよう配慮している。また、年2回職員の個別面談を実施し、健康面やメンタル面について把握する事に努めている。		

茨城県 グループホームサングリーンピア大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を定期的に行なったり、外部の研修に参加させる機会を積極的に設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に参加し、他ホームとの交流を深めたり、勉強会に参加している。また、市の介護支援専門員連絡協議会の勉強会にも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と面談し要望を聞くと共に、時間をかけて本人の本音を引き出せるような問いかけや 雰囲気を作るようにし、本人のペースに合わせた支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談した際、チェックポイントシートやセンター方式シートを利用し、説明をしながら家族の要望等に耳を傾け、具体的な対応方法等を相談しながらアドバイスしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等の状況や要望に配慮し、最良の支援ができるよう心がけているが、受け入れが困難な場合は他サービスの紹介や相談をすることがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の立場が、ある時は娘になり孫になり嫁になると、ホーム自体が一つの家族として生活している。また、入居者に教えを乞うこともあり、人生の先輩として尊敬の気持ちを持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に、入居者の一番の心の支えになっているのは家族だということを伝え、積極的にかかわりを持ってほしい旨を伝えている。また、家族に助言を求める等介護に参加しているという意識を持ってもらっている。		

茨城県 グループホームサングリーンピア大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会があったときなど、自宅に立ち寄りたりその周辺をドライブしたりしている。また、本人による手作りの年賀状を送っている。	家族と相談しながら自宅に帰ったり、家族の同意の基自宅近くをドライブしたりしている。また、毎年手作り年賀状を家族や友人宛に出している。今後も継続して行っていく様であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士で過ごす機会を設けている。食事時の座席の配置にも考慮し、出来るだけ孤立しないように配慮している。一人で過ごしたい入居者には、職員がさりげなく寄り添ったり見守りをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者に対して、可能な限り面会している。また、家族にも状況を伺ったり、時には相談に応じる事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	チェックポイントシートを基に、ニーズを把握し、必要な支援を見極め、本人の思いや意向をホームでの生活に反映できるよう努めている。	入居者ひとり一人のケア確認表を作成し日常的な入居者の表情の変化や、些細な行動の変化などを記入し入居者の思いの把握に努められていた。	介護場面において落ち着かない入居者に対して、やや強いる様な対応で椅子に座って食事を促す様子が見られた。入居者本人の疾患を含めた思いに寄り添い大きな声を出さない尊厳のある介護を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、本人や家族から生活歴等を伺ったり、担当のケアマネージャーからも情報を得、置かれてきた環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居初期の段階や必要に応じて、生活リズムパターンシートを活用しアセスメントしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当者が、全体会議や朝の申し送り時などに話し合いをもち、ケア確認表に記入している。ケア確認表を毎日チェックし、ケアが出来ているか確認している。また、反省点を記入する欄を設け、次の課題に取り組めるよう、振り返る機会を作っている。	ケア確認表は担当職員が中心になって記入され、それらをいかし介護計画が作成されていた。現在は少し具体性に欠けるものであるが今後職員と協働し、よりよい具体性のあるものにしていくとの事であった。	

茨城県 グループホームサングリーンピア大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア確認表を作成し、月に一度見直しを行い現状にそぐわない時は話し合いをもちながら介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体験入所を行い本人や家族が納得していただいてから契約する事もある。また、入院した入居者に対しての衣類洗濯サービスの提供を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署に来て頂き、救命講習や消防訓練を実施している。また、地域の健康教室に参加し地域との交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を変えること無く継続して受診できるよう取り計らっている。受診の必要時は家族と相談し、家族が同行できないときには受診記録を作成し報告している。また、協力病院で対応していただけるよう体制が出来ている。	当該事業所では基本的に入居前のかかりつけ医に受診する事と決められている。受診は家族の支援の基おこなわれているが家族の都合が悪い時は職員が付添う体制も整えられてた。職員が同伴した時には、その都度家族に報告されていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいないが、系列の福祉施設の看護師に相談することがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提出したり、担当医師や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間で話し合った結果、看取りは行なわない方針となった。家族も、最後は病院での考えである。看取りは行なわない旨の文書を取り交わしている。	法人・事業所・職員で検討を重ねた結果現在は、訪問診療や訪問看護がなく緊急時の対応が出来ない事もあり終末期の看取りは行なわない方針が出来ている。また、その事は入居者家族に対し入居時に同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が定期的に消防署主催による救命講習を受講し、普通救命講習修了証を携帯している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所を把握し、輪番制で夜間や緊急時の応援担当者を置いている。また、消防署の指導の下、テラスの仕切りを取り払った。	避難訓練は、地域の消防署と合同で行っている。また、緊急連絡網も作成されているがホームの2階に代表も居住している事も手伝い、地域住民の協力も得られる仕組みづくりが出来ていた。	災害時の対応を考え1階部分のベランダの境は外されていたがそのベランダから外に避難できるような扉等の設置がなく緊急時避難経路の確保のための検証を再度期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であるという考えを念頭におきながら、一人ひとりの性格を把握し、入居者の立場になったことを想像しながら対応している。	入居者の方の意向で自室で食事をしたい希望がある入居者は自室で食事をするなど配慮がされ個々のプライバシーを守る取り組みがされていた。	食事時上手にスプーンを使用できず思わず手を使って食事をする入居者がおられた。入居者ひとり一人の尊厳が確保出来るような支援と食器等の選択を含めた介護方法の検証を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居前の生活を出来るだけ変えることなく、自分で意思表示しづらい方には家族に希望を聞き、本人が自己主張できるような対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を過ごす事ができるよう、可能な限り希望を受け入れ、本人の言う事や問いかけにしっかり耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝洗顔をし、人によっては化粧水をつけている。季節に合わせた衣類を分かりやすく配置し、自分で衣類を選びやすくしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に嗜好を伺い、苦手な食べ物は栄養価の同じような物に代替している。また、敷地内の家庭菜園で採れた季節の野菜と一緒に収穫し、簡単な調理の手伝いをしていただいている。片付けも自分の仕事として行なう入居者もいる。	日々の食事は特にメニューを定めず入居者と共に献立を考えたり、近隣の方から頂いた野菜や自社の家庭菜園で採れた新鮮な野菜をふんだんに使った食事の作成がされていた。また、家庭菜園は入居者と共に収穫するなど全身で食に関する楽しみを作る試みがされていた。	

茨城県 グループホームサングリーンピア大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	能力に応じて食事形態を変えている。また、味を変える等の工夫をしている。必要に応じて水分摂取記録表に記入し、必要量が確保されているかをチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。うがいのできない方にはガーゼで口腔内を拭うこともある。また、口腔内に異常が無いか確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、介助が必要な方には2～3時間おきに誘導し、ほぼ自立されている方も1日2回、汚れや失敗が無いか確認し、清拭している。	基本的に時間で排泄の誘導を行ったりしながら本人の排泄のリズムを把握し自立支援に繋がっていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その都度排便チェック表に記入し、排便の無い方には水分補給や、繊維質の多い食材をとりいれている。また、必要に応じて主治医と相談の上、便秘薬を服用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否した場合は時間をずらしたり、次の日に延期したりしている。基本的に週2回は入れるようにしている。また、季節に応じて柚子風呂やりんご風呂を楽しんでいる。	季節感を味わえるような柚子やリンゴの風呂を企画し入居者にも好評である。また入浴を拒む方には無理せず職員を変える・時間を変えるなど臨機応変な対応が出来ていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な時間に昼寝が出来る体制である。その都度、室温管理や明るさの調節を行い、気持ちよく休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く薬情報を職員全員で共有し、症状に変化が見られた場合はその都度受診し、主治医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	契約時に本人や家族から生活歴や習慣、得意な事の情報を得、ホームでそれらを活かせる場を意識的に作り、役割や居場所作り、他入居者や職員とのコミュニケーション作りに役立っている。		

茨城県 グループホームサングリーンピア大宮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がよく暖かい日は、屋外で日光浴や外気浴を行い気分転換を図っている。また、季節感を味わえるような場所や、自宅周辺をドライブしたり、外食したりする機会を設けている。	日差しが暖かな日は近隣への散歩が日課になっている。外食の機会を定期的に企画し気分転換が計られていた。また自宅へ一緒に行く等も家族の同意の基実施されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族によっては、失くしてもいいからと本人に小遣いを渡す方もいる。基本的に小遣いは施設で管理しているが、買い物之机を設け本人にお金を渡し、付き添いながら会計することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望があった場合や、家族から電話があった場合は、積極的に取り次ぐようにして感情や意思を尊重している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上改築するのは難しいため、日中でも共用スペースは電気をつけるなど、明るさを調整している。また、エアコンを使用し室温を一定に保つようにしている。室内にも季節感を味わえるような飾り付けや行事を行なっている。	共用空間はハードの関係で縦長の形状であるがその形状を生かし両サイドに一人ひとりがほっと出来るようなソファスペースを確保し、洗濯をたたむスペースや休息のスペースなど、自由に使用されゆったりした空間になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を施設内に数箇所に分けて配置し、自由に寛げる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参されることを勧め、自宅で使用していた日用品を、継続してホームで使用している方もいる。仏具や位牌、遺影を居室に置いておく方もいる。	自宅で使用していた調度品は勿論の事、女性の入居者は馴染みの化粧品等も持参され自室が居心地の良い空間になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名前を書いた張り紙をしたり、トイレ入口に入居者の目の高さに合わせた張り紙をしている。日付や曜日を大きく表示し、わかりやすい場所に掲示している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	今後は市町村職員や地域包括支援センター職員が参加しやすい曜日等の開催も視野に入れ、他職種が協働できるような推進会議の構築を期待する。また、以前実施されたような防災の日等のイベントを推進会議の日と重ねるような工夫を期待する。	市職員や地域包括支援センター職員が参加しやすいように会議日程を平日に設定するよう試みる。ご家族様の参加を促すためにも、平日と土曜日とを3回ずつに振り分けてみる。	土曜日開催であっても、市職員や地域包括支援センター職員、ご家族様が一緒に参加できるように年3回のイベント型推進会議を設けてみる。 (防災訓練・救命訓練・地域連携訓練等)	6ヶ月
2	23	介護場面において落ち着かない入居者に対して、やや強いるような対応で椅子に座って食事を促す様子が見られた。入居者本人の疾患を含めた思いに寄り添い大きな声を出さない尊厳のある介護を期待する。	入居者ひとり一人のケア確認表を基に、必要な支援を行なう職員の態度・行動を見直す。さらに、ひとり一人に対する介護計画を具体化していく。	朝の申し送り時や会議等の中で、入居者ひとり一人における病状や行動の変化等を確認し合い必要な支援を見極める。各入居者ごとの個人記録用紙やケア確認表の空欄を活用し、全職員が気付いた事を自由に書き留めるようにしておく。	3ヶ月
3	35	災害時の対応を考え1階部分のベランダの境は外されていたがそのベランダから外に避難できるような扉等の設置がなく緊急避難経路の確保のための検証を再度期待する。	ベランダからの緊急避難を考えると、ベランダの高さが117cmあり職員による入居者の誘導には時間がかかってしまうものと思われる。扉の設置、もしくは別経路の避難路の確保を早急に検討する。	消防署等の協力を得て、再度別経路の避難路も検証する。また、ベランダの避難扉の設置が可能かどうか早急に検討する。	3ヶ月
4	36	食事時上手にスプーンを使用できず思わず手を使って食事をする入居者がおられた。入居者一人一人の尊厳が確保できるような支援と食器等の選択を含めた介護方法の検証を期待する。	入居者ひとり一人の出来る行動、出来ない行動をも把握し、尊厳が確保できるような支援と日常の生活用品にも考慮する対応をする。	生活用品(食器等も含む)においては、一般的市販品に限らず、介護専門用品等に変えるなどの工夫をし、入居者ひとり一人の介護支援に合わせた選択をする。	3ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。